

ライラックの森

中村祥二（会長）

はじめに

香りの良い花の普及に熱心な大田花卉の宍戸純さんの誘いもあって札幌の百合が原公園とライラックの川下公園を訪れた。ユリについてはVENUSの2014年秋号で述べた。

隣家と私の家には1本ずつライラックの木が植えられていた。入居して1年後には、どちらも枯れてしまった。お隣は園芸が好きで枯らしてしまうような不都合は考えられなかった。住まいの付近を散歩していてもライラックが咲いているのを見かけたことがない。どうも、神奈川県の子の平地の気候がライラックには合わないようだった。

ライラックは香料の世界ではローズ、ジャスミン、スズラン、ニオイスマイレ、クチナシと並んで6大花香の一つであり自分の庭に咲いた花の香りを嗅ぐことができれば幸いとおもっていた。私はライラックの香りが好きで現役の時にはライラックの調合された香料を時々使ったものだった。

1. ライラック品種改良の歴史

ライラックは、16世紀頃からフランスで栽培されるようになり、18世紀から19世紀後半までフランスで *Syringa vulgaris* (the common lilac) の品種改良が盛んに行われた。

羅和辞典（研究社）1995年によると種小名の *vulgaris* は「俗の、普通の、日常の、陳腐な、平凡な」、園芸植物大事典（小学館）1999年には「ライラックは紫、スマイレ色などの花の色のせいか、悲しい辛い事がらと関連付けて語られることが多い。国によっては、家の中に持ち込むと不幸を招くといわれた」とある。

ライラックの花言葉にはつぎのようになっている。

白い花：年若き無邪気さ、青春の喜び

紫の花：恋愛のはじめての喜び

2. 「川下公園のライラックの森」の概要

ライラックは、アメリカ、カナダ、ヨーロッパでは主要花木の一つであったが、日本では品種の導入が遅れ、まとまった品種のコレクションはなかった。

ライラックについては戦後、札幌を中心とした栽培が中心であった。そこで、ライラックを市木とする札幌市は、札幌の冷涼な気候に適したライラックのすばらしさを多くの人に楽しんでもらう場所としてライラック園をつくることになった。

1999年7月にオープンした公園内には、世界のライラック200種、1700本を植えた「ライラックの森」ができあがった。早咲きは5月中旬から咲き始め、遅咲きが咲き終わる7月上旬までの約1ヶ月半の間におおよそ200種類のライラックの花が次々に咲くようになった。

3. 「ライラックの森」で選んだ

5種類のフレンチライラック

川下公園でお目当ての満開の花のコレクションに出会えた。しかし短い時間の中で全てのライラックを觀賞することは難しかった。そこで *Syringa vulgaris* フレンチ ライラックに焦点を絞って観ることにした。



アンヌ シャック (パープル一重)



ナンシー フリック (ピンク一重)



マーサ (白一重)



マダム フロント ステップマン (白一重)



アモール (マゼンター一重)

ライラックの写真は全てガーデンデザイナーの前川美伸さんの撮影による。ご協力に深く感謝とお礼を申し上げます。

4. ライラックの花の最初の分析

ライラックの花の天然香料 (absolute) の先進的なブタンによる抽出が P. Robertet 社によっておこなわれた。その後、1938 年頃 Antoine Chiris 社は石油エーテルを用いて *Syringa vulgaris* から concrete を得ることに成功している。

1970 年に Wakayama らは花をヘキサン抽出し、得られたコンクリートを水蒸気蒸留したものより、その主成分 4 種の異性体からなるテルペンアルコールを総称して Lilac alcohols と名付けた。更に、1974 年には複数のフラン体について同様に Lilac aldehydes と名付け報告している。

これらに基づいて香水の処方も調香されるようになった。

以上

White Lilac		Pink Lilac	
1	Benzaldehyde	35	Benzyl acetate
50	Benzyl acetate	100	Terpineol
25	Linalol	240	Phenyl ethyl alcohol
100	Terpineol	180	Heliotropin
300	Phenyl ethyl alcohol	10	Anisic aldehyde
80	Petitgrain, French	130	Cinnamic alcohol
40	Anisic aldehyde	290	Hydroxy citronellal
5	Indole	5	Iso-eugenol
30	Ylang	10	Phenyl acetic aldehyde, 10%
30	Jasmin absolute	1000	
20	Neroli		
80	Cinnamic alcohol		
200	Hydroxy citronellal		
10	Phenyl acetaldehyde dimethyl acetal		
9	Iso-eugenol		
20	Phenyl acetic aldehyde		
<hr/>			
1000			

参考資料・文献

- 1) 「川下公園 ライラックの森」 札幌市川下公園管理事務所 2010 年 2 月
- 2) W. A. Poucher : *Perfumes Cosmetics and Soaps* vol. 2, Chapman and Hall, 1959
- 3) S. Wakayama, S. Namba, et al., *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **43**, 3319 (1970).